



# まちづくり 元気塾

東北電力 地域活性化に向け  
魅力的なまちづくりをサポート  
地域活性化に向け  
魅力的なまちづくりをサポート

東北電力は地域が直面する課題の解決に取り組む団体の活動を支援する制度、「まちづくり元気塾」に取り組んでいる。制度の概要や今年度の事例を紹介するとともに、元気塾でこれまで支援した団体を取り扱う。元気塾を通じ発見した地域の魅力や現在の活動、今後の展望について聞いた。

## 目次

- P2 まちづくり元気塾とは(制度の概要・特長)
- P3 アドバイザリーボード座長・岡崎 昌之氏 インタビュー
- アドバイザリーボードメンバー紹介
- P4~5 ふじさと元気塾 秋田県藤里町
- P6~7 柳橋町内会 福島県郡山市
- P8 2017年度支援団体の紹介



集合研修型の元気塾「マスターコース」における団体間の交流の様子

東北電力が展開する「まちづくり元気塾®」は、東北6県と新潟県で地域活性化に向け、地域が直面する課題の解決に取り組む団体を支援する制度。個性や活力にあふれるまちづくりの実現に向け、専門家の派遣を通じ、地域住民の活動をサポートするものだ。同社の「アドバイザリーボード」や、「まちづくりパートナー」による、地域の成長・発展に寄り添う取り組みの一環として展開している。

また、専門家や実務経験者で構成される「アドバイザリーボード」で支援団体を選定。地域のテーマや課題に合った専門家「まちづくりパートナー」としてまちづくりを支援する。コーポーレームのメンバーは「チーフパートナー」としてまちづくりを支援する。

まちづくりパートナーは地域が抱える課題を見極め、直接助言するほか、先行事例を紹介。同時に、ワークショップなどの実践的なサポートを通じ、観光資源や特産品など地域に根付く魅力を発掘する手助けも。地域住民と協働するパートナーとともに、まちづくりの輪から考え方、支援するところが役割だ。JRのパートナーの支援を受けた団体は、自らの手で地域の活性化に取り組んでいく。また、集合研修型の元気塾「マスターコース」においては、これまでに支援した団体が一堂に会し、まちづくりパートナーの話を他団体の活動報告から今後の活動のヒントを得る場。複数の団体が交流を通して「気づき」を得ると同時に、新たなネットワークの形成に役立つ。

元気塾は2006年度の開始からこれまで、東北電力のホームページに掲載しているほか、年度ごとに発行する活動事例集などで紹介している。

## 制度の概要・特長

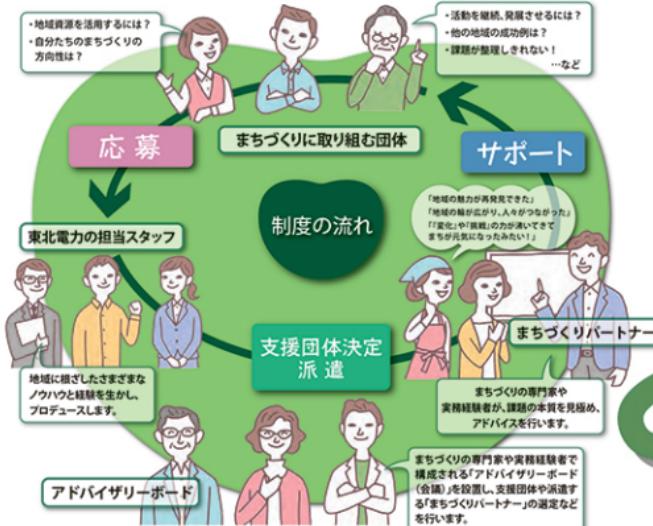
# 地域の成長・発展に寄り添う

東北電力が展開する「まちづくり元気塾®」は、東北6県と新潟県で地域活性化に向け、地域が直面する課題の解決に取り組む団体を支援する制度。個性や活力にあふれるまちづくりの実現に向け、専門家の派遣を通じ、地域住民の活動をサポートするものだ。同社の「アドバイザリーボード」や、「まちづくりパートナー」による、地域の成長・発展に寄り添う取り組みの一環として展開している。

また、専門家や実務経験者で構成される「アドバイザリーボード」で支援団体を選定。地域のテーマや課題に合った専門家「まちづくりパートナー」を派遣する。JRのパートナーは「チーフパートナー」としてまちづくりを支援する。

まちづくりパートナーは地域が抱える課題を見極め、直接助言するほか、先行事例を紹介。同時に、ワークショップなどの実践的なサポートを通じ、観光資源や特産品など地域に根付く魅力を発掘する手助けも。地域住民と協働するパートナーとともに、まちづくりの輪から考え方、支援するところが役割だ。JRのパートナーの支援を受けた団体は、自らの手で地域の活性化に取り組んでいく。また、集合研修型の元気塾「マスターコース」においては、これまでに支援した団体が一堂に会し、まちづくりパートナーの話を他団体の活動報告から今後の活動のヒントを得る場。複数の団体が交流を通して「気づき」を得ると同時に、新たなネットワークの形成に役立つ。

元気塾は2006年度の開始からこれまで、東北電力のホームページに掲載しているほか、年度ごとに発行する活動事例集などで紹介している。



## 年間スケジュール [予定]

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	翌3月
9月1日～10月31日 募集期間	アドバイザリーボードによる 支援団体の選定	支援団体決定 通知	まちづくりパートナー派遣 (3回)					

## 地域活性化に向けたまちづくりをサポート まちづくり元気塾

南北電力 地域づくり支援制度

り組む団体の傾向として特定の  
「具体的な傾向」が浸透してきました  
感じる。また、まちづくりに取り組む  
地域住民と共に活動する「まちづ  
くり専門家」が何をやるべきか  
と最初から悩んでいたのです。  
元気塾を運営する方々が、地域活性化  
のための活動を通じて、どのように変化  
していったのかが、地域活性化の実際を学ぶ  
うえで、新たな価値を発見する  
「まちづくり元気塾」です。

元気塾の活動を通して、  
どのような変化が  
生まれているか。

まちづくり元気塾  
制度の良さは何か。

まちづくり元気塾の運営、支援活動への貢献、支援結果や制度本に対する評価などを会議体。まちづくりの専門家や実務経験者が構成されています。

まちづくり元気塾  
制度について

まちづくり元気塾は、地域活性化に向けたまちづくりをサポートする南北電力の制度です。地域活性化に向けたまちづくりを実現するための活動や、その活動による成果を評価するための評議会が開催されます。

まちづくり元気塾

まちづくり元気塾は、地域活性化に向けたまちづくりをサポートする南北電力の制度です。地域活性化に向けたまちづくりを実現するための活動や、その活動による成果を評価するための評議会が開催されます。

まちづくり元気塾

まちづくり元気塾は、地域活性化に向けたまちづくりをサポートする南北電力の制度です。地域活性化に向けたまちづくりを実現するための活動や、その活動による成果を評価するための評議会が開催されます。

まちづくり元気塾

まちづくり元気塾は、地域活性化に向けたまちづくりをサポートする南北電力の制度です。地域活性化に向けたまちづくりを実現するための活動や、その活動による成果を評価するための評議会が開催されます。

まちづくり元気塾  
制度とは。

岡崎昌之 氏 インタビュー

アドバイザリー ボード座長



## アドバイザリー ボード メンバーの紹介

※アドバイザリー ボードについて…まちづくり元気塾の支援団体や派遣する「まちづくりパートナー」の選定、支援活動への貢献、支援結果や制度本に対する評価などを会議体。まちづくりの専門家や実務経験者が構成されています。



株東北地域環境研究室 代表

志賀 秀一 氏

金融機関勤務後、観光施設「山寺風雅の国」常務取締役を経て、平成13年から地域づくり・観光まちづくりに関するシンクタンクの代表を務める。



東北学院大学 教養学部 教授

柳井 雅氏

岡山大学文学部助教授、富山大学経済学部教授を経て、平成17年より現職。国土形成計画北陸圏広域地方計画懇談会委員、宮城県基本計画策定委員会委員などを歴任。



善寺川ムラムラ研究所 代表取締役

寺川 重俊 氏

まちづくりコンサルタントとして、全国の中山間地域や地方都市の都市計画、産業振興、中心市街地活性化、集落活性化の実践を支援。



法政大学 名誉教授

岡崎 昌之 氏

アドバイザリー  
ボード座長

地域経営や地域振興の第一人者として知られ、数多くの地域づくりに参画。自治体学会顧問、地域づくり団体全国協議会会長などの要職を歴任。



作新学院大学 名譽教授

橋立 達夫 氏

大学在学中から始まり、民間研究機関勤務、研究所経営などを通じて、50年にわたり北海道から沖縄まで全国のまちづくりの現場に携わる。



認定NPO法人遠野山・里・暮らしぱトワーク 会長

菊池 雄一 氏

遠野市商工観光課長、産業振興部長を歴任。退職後に認定NPO法人遠野山・里・暮らしぱトワークの立ち上げに関わり、遠野のグリーン・ツーリズムの振興に携わる。



花巻市コミュニティアドバイザー

役重 真喜子 氏

農家研修で出会った岩手県東和町に魅せられ、平成15年農水省を退職、定住。東和町・合併後の花巻市で教育次長、地域づくり課長、総務課長などを務めた。

秋田県



藤里町

# ふじさと元気塾

地域の宝、掘り起こす

まちづくり  
パートナー菊池  
新一 氏  
岡崎  
昌之 氏認定NPO法人  
遠野山・里・暮らしネットワーク 会長  
法政大学 名譽教授博保 氏  
ぶなの森 代表取締役  
役重  
眞喜子 氏  
花巻市コミュニティアドバイザー

## 大学生と協力し知恵絞る

世界自然遺産 白神山地の

蔵に位置する秋田県藤里町。

人口減少や高齢化が進むこの

町で、地域活性化に取り組む

団体が「ふじさと元気塾」だ。  
2010年の活動開始以来、標

田の保全や高齢者宅の除雪支

援費や物支援について活動な

ど取り組むと同時に、秋田県内の地域貢献活動に取り組む

大學生グループ(AACU-Per.)と協力して、地域住民との

交流活動などを実施してきた。  
そのものは、地域活性化

をさらに加速させ、いまいち

つての元気塾に応募し、年度

の支援団体に選ばれ、助助の考

えを生かして大学生と一緒に取り組んだのは町内の柏

木地区を支える仕組みの一つ

として「お宝マップ」を行つた。参加者が

まず取り組んだのは参加者の学生の共育だ。地区住民と一緒に活動に取り組んだ。

まちづくり元気塾の活動と

一緒に取り組むと同時に、秋田県内の地域貢献活動に取り組む

大學生グループ(AACU-Per.)と協力して、地域住民との

交流活動などを実施してきた。  
そのものは、地域活性化

をさらに加速させ、いまいち

つての元気塾に応募し、年度

の支援団体に選ばれ、助助の考

えを生かして大学生と一緒に取り組んだのは町内の柏

木地区を支える仕組みの一つ

として「お宝マップ」を行つた。参加者が

まず取り組んだのは参加者の学生の共育だ。地区住民と一緒に活動に取り組んだ。

まちづくり元気塾の活動と

一緒に取り組むと同時に、秋田

県内の地域貢献活動に取り組む

大學生グループ(AACU-Per.)と協力して、地域住民との

交流活動などを実施してきた。  
そのものは、地域活性化

をさらに加速させ、いまいち

つての元気塾に応募し、年度

の支援団体に選ばれ、助助の考

えを生かして大学生と一緒に取り組んだのは町内の柏

木地区を支える仕組みの一つ

として「お宝マップ」を行つた。参加者が

まず取り組んだのは参加者の学生の共育だ。地区住民と一緒に活動に取り組んだ。

まちづくり元気塾の活動と

一緒に取り組むと同時に、秋田

県内の地域貢献活動に取り組む

大學生グループ(AACU-Per.)と協力して、地域住民との

交流活動などを実施してきた。  
そのものは、地域活性化

をさらに加速させ、いまいち

つての元気塾に応募し、年度

の支援団体に選ばれ、助助の考

えを生かして大学生と一緒に取り組んだのは町内の柏

## 藤里町のオスマナ



白神山地において使つた使用したキッシュ

藤里町の特産品、「白神山地まいにけ」。白神山地の清らかな水ときれいな空気のもと、菌床栽培されたマイタケは天然マイタケに近い豊かな香りと味わいが特長だ。栽培の最盛期は9月から12月だが、年間を通して栽培されており、一年を通じていつでもそのおいしさを味わうことが可能。天ぷらやきりんなど鍋、炒めもの、炊き込みご飯など様々な料理にマッチする。また、最近ではおいしさはもちろん、美容効果にも注目が集まっている。

このほか、藤里町では「サフォーク種」と呼ばれる羊も特産品だ。町内では、ラムとマトンの中間で「ホゲット」という柔らかく臭みも少ない新鮮な羊肉を堪能することができる。



お宝マップの発表に熱心に聞き入る柏毛地区の住民たち

毛地区を対象とした「お宝マップ」を行つた。毛地区に縁ある方などが外から関わってくれる人をできるだけ巻き込み、交流していくことが大切」とつた助言があつた。

その中で出した大イトチは、農業収穫や地元産品を使つた農業ストーリー、地区の情報報を知らせる広報紙の発行、地区的歴史や名所を紹介する散歩ツアーなど様々。まちづくり元気塾の活動から生まれたこれらのアイデアをもとに、参考者は積極的な活動を開始した。



る人員や提供メ

と元気塾の歩みは止まらない。

実際に農泊事業を行っている民家の外観

農業事業では、地区内の6軒が農家民宿を開業。17年8月からの受け入れ数は既に120人超と予想数20人を大幅に上回り、好調なスタートを切っている。岩手県遠野市慣れ工夫や改善案を自分で考へているいるな

ど前向きな感想が聞こえている。このほかにも、地元で採れた食材を使った農家レストラン。

の開業準備も進む。既に場所は確保し、保健所の許可も取得

てある。まちづくり元気塾では、高齢者宅の除雪支援や買い物支援といった共助の活動を実行せることなど、雪国の過疎の集落ではどこでも抱えている問題についてどのように解決して地域の活性化に結びつけるかといふことでした。

まちづくり元気塾では、以前から藤里町での交流活動に関わっている「ARC(アーケ)」という地域活性化に取り組む秋田の大学生グループとうまく連携することが課題を解決する「カギ」になるとと考えました。まずは、「地域の魅力」をそこで暮らす住民自らが認識するために「地域のお宝マップ」づくりを行い、この活動に多くのARCの学生が濃密に関わりましたが、その効果は計り知れないものでした。結果として、このお宝マップをきっかけに住民の関心が高まり、様々な活動が活発に行われるようになりました。そして、当初はやや消極的と思われていた女性たちの活動への参加が目覚し、あつという間に6軒の農家民宿が誕生し、17年8月の開業からすでに120人を超える宿泊客を受け入れる状況になりました。まさに農家レストランを開業することも決めて準備を進めなん活動の流れは止まっています。

ARCにとっても、継続的に活動に参加しながら、メンバーの学生たち自らが成長する機会となっており、彼らがこうした活動に関わることはたいへん意義深いことです。

このように、地域には少しのきっかけがあれば動き出す「活力」「人財」が潜在しており、そのチャンスをつくるまちづくり元気塾の役割は大きいと考えます。

## 6軒が農泊事業を開始

まちづくり元気塾での活動を通じて、柏毛地区では地域活性化に向けた取り組みが次々と実を結んでいる。まず実現したのは広報紙「柏毛だより」の発行。地元住民や柏毛地区を離れて地元出身者を対象に地区的身近な話題などを知らせることで、広報紙では地元の6

軒が農家民宿を開業。17年8月からの受け入れ数は既に120人超と予想数20人を大幅に上回り、好調なスタートを切っている。岩手県遠野市慣れ工夫や改善案を自分で考へているいるな

ど前向きな感想が聞こえている。このほかにも、地元で採れた食材を使った農家レストラン。

の開業準備も進む。既に場所は確保し、保健所の許可も取得

てある。まちづくり元気塾では、高齢者宅の除雪支援や買い物支援といった共助の活動を実行せることなど、雪国の過疎の集落ではどこでも抱えている問題についてどのように解決して地域の活性化に結びつけるかといふことでした。

まちづくり元気塾では、以前から藤里町での交流活動に関わっている「ARC(アーケ)」という地域活性化に取り組む秋田の大学生グループとうまく連携することが課題を解決する「カギ」になるとと考えました。

まずは、「地域の魅力」をそこで暮らす住民自らが認識するために「地域のお宝マップ」づくりを行い、この活動に多くのARCの学生が濃密に関わりましたが、その効果は計り知れないものでした。結果として、このお宝マップをきっかけに住民の関心が高まり、様々な活動が活発に行われるようになりました。そして、当初はやや消極的と思われていた女性たちの活動への参加が目覚し、あつという間に6軒の農家民宿が誕生し、17年8月の開業からすでに120人を超える宿泊客を受け入れる状況になりました。まさに農家レストランを開業することも決めて準備を進めなん活動の流れは止まっています。

まちづくり元気塾の活動の中で一番うれしかったのは、「お宝マップ」の作成を通じて、地域の魅力を再発見できたこと。まちづくりパートナーの方から助言を頂いた、名所や食べ物だけでなく、「人財」を見付けるという視点を生かし作成したお宝マップが様々な成果に結び付きました。このほかにも、「ここ」にあるものを使って、「ここ」にいる人たちが、「ここ」の土地でやることが何より大切」という考え方にも感銘を受けました。

住民の方々にも変化が生まれており、地域活性化の取り組みに対して「自分たちがやるんだ」という思いが共通するようになりました。特に女性の方々の頑張りや行動力は目に見えるものがあります。同時に、行政からの理解や応援も広がってきました。

まちづくり元気塾で得られた様々なノウハウを生かして、この動きを柏毛地区だけでなく藤里町全体に波及させていくよう、今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。

## 特定非営利活動法人 ふじさと元気塾理事長 藤原 弘章さん



私たちふじさと元気塾では以前から地域の活性化を目指し、大学生と協力しながら様々な活動に取り組んでいました。その活動をさらに加速させようと応募したのがまちづくり元気塾。農泊事業の実現や柏毛だよりの発行など多くの成果が生まれ、地域が確かに変わりました。

まちづくり元気塾の活動の中で一番うれしかったのは、「お宝マップ」の作成を通じて、地域の魅力を再発見できたこと。まちづくりパートナーの方から助言を頂いた、名所や食べ物だけでなく、「人財」を見付けるという視点を生かし作成したお宝マップが様々な成果に結び付きました。このほかにも、「ここ」にあるものを使って、「ここ」にいる人たちが、「ここ」の土地でやることが何より大切」という考え方にも感銘を受けました。

住民の方々にも変化が生まれており、地域活性化の取り組みに対して「自分たちがやるんだ」という思いが共通するようになりました。特に女性の方々の頑張りや行動力は目に見えるものがあります。同時に、行政からの理解や応援も広がってきました。

まちづくり元気塾で得られた様々なノウハウを生かして、この動きを柏毛地区だけでなく藤里町全体に波及させていくよう、今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。

福島県

郡山市

# 柳橋町内会

歌舞伎と食資源、組み合わせ

まちづくり  
パートナー

橋立  
達夫 氏  
本田  
節 氏

作新学院  
名誉教授  
ひまり  
ひまり  
代表取締役

岡崎  
昌之 氏  
田村  
幸夫 氏

法政大学  
名譽教授  
JAはが野  
理事



地元住民も試食に参加し、農家レストラン開催に向けて様々な意見を出し合った



ワークショップの様子。地元の食材を持ち寄り試作品づくりを行った

福島県郡山市には江戸時代後期から200年以上にわたり、地域ぐるみで公演が続けられてきた市指定重要無形民俗文化財「柳橋歌舞伎」があるこの歴史ある郷土芸能の担い手にして、地域活性化に取り組んでいる団体が同市柳橋地区の「柳橋町内会」。これまでに大学生と協力した特産品開発やイベントの開催、農業体験を通じた都会の住民との交流事業などを実施してきた。

地域活性化に取り組む中で生まれてきたのは、住民自らの手で守ってきた歌舞伎を生かして地域にぎわいを取り戻したい、地域レスポンスマネジメントによる取り組みが取り組んでいた。この歴史ある郷土芸能の担い手として、地域活性化に取り組む中で

これまで元気塾の活動を通して浮かび上がってきたことば、地域資源の豊富さをもう一度うなづかせる。そもそも

参加者はワークショップで歌舞伎公演での弁当販売や農家レストランでの提供をイメージした料理づくりを開発、また、地域レスポンスマネジメントの担い手として、地域活性化に取り組む中で

これまで元気塾の活動を通して浮かび上がってきたことば、地域資源の豊富さをもう一度うなづかせる。そもそも

参加者はワークショップで歌舞伎公演での弁当販売や農家レストランでの提供をイメージした料理づくりを開発、また、地域レスポンスマネジメントの担い手として、地域活性化に取り組む中で

これまで元気塾の活動を通して浮かび上がってきたことば、地域資源の豊富さをもう一度うなづかせる。そもそも

参加者はワークショップで歌舞伎公演での弁当販売や農家レストランでの提供をイメージした料理づくりを開発、また、地域レスポンスマネジメントの担い手として、地域活性化に取り組む中で

これまで元気塾の活動を通して浮かび上がり得たことば、地域資源の豊富さをもう一度うなづかせる。そもそも

## 地元食材生かし、メニュー開発

可能な太巻き寿司などいか

という声。歌舞伎の舞台で使

用される3色の引薦(定算式)

をイメージした太巻き寿司の

試作品づくりなどが行われ、

17年公演での提供に向け検討

が行われた。

また、農家レッスンにおいては、空き家などを活用

する交渉がまとまりため、元

気塾の参加者を中心にして、レッ

スンの運営を行う「柳橋きら

り塾」を結成。多くの住民の

協力で、空き家への申請や

メニュー開発、保健所への申請

などが急ピッチで進展するこ

ととなった。

柳橋地区で毎年9月に開催される歌舞伎公演

まちづくりパートナーから地元の食材を生かす

ことの重要性についてアドバイスがあった

## 柳橋地区のオスマ

郡山市的重要無形民俗文化財に指定されている柳橋地区的伝統芸能、「柳橋歌舞伎」。その歴史は古く、天領であったため芸能への規制が緩やかだった江戸時代に、地元の菅原神社の祭りで村人が芝居や歌を楽しんだのが始まりと言われている。明治時代、興行の取締りや規制が多くなり、何度も中断に追い込まれたが、地区ぐるみの支援で現在まで連続と受け継がれてきた。

役者から裏方まで全てが地域住民による手づくりの舞台はまさに必見。演目は「義姫千本桜」など15本以上にのぼり、大人のほか、地元中学生による演技も披露される。毎年9月に開催されており、華やかな歌舞伎を一目見ようと県内外から多くの観光客が訪れる。



柳橋地区で毎年9月に開催される歌舞伎公演



まちづくりパートナーから地元の食材を生かすことの重要性についてアドバイスがあった



舞伎のお供に欠いてはならないものでした。

いつに

決して。17年の食の用意したが、あくまで、当日に時間が取れないという問題も解

はぎは事前にある程度準備可能である程度準備可能となため、当日に時間が取れない完成させた。お

はぎは事前にあらかじめシール貼付で販売を行った。そのため、新幹線のオーバーアップを17年9月に開催。ま

ちづくりパートナーから、原価意識を持ったことの意味や、食材を地元農家から仕入れることにより利益を地域で循環させる仕組みづくりなどにつ

会の思いが結実の時を迎えた。念願だった農家レストラン「舞の里けやき亭」がオープン。PRにも力を入れた結果、地元紙で取り上げられるなど注目度も高い。営業日は土曜日で、近隣の住民をはじめ、県内外から多くの人々がけやき亭の味を求めて訪れている。

豆腐ハンバーグ、地元の豆腐

店から仕入れた豆腐を使用し

た逸品だ。また、米や野菜、果物も全て地元のものを使用。

手づくりの白和えや漬物は非

常に優しい味わいで、何度も

寄せられてしまう」という。歌舞伎公演での弁当販売も実現にこぎ着けた。太寿司は食材の一部が歌舞伎の公演時期に確保できないな

どの理由から断念せざるを得

なかつたが、代わりに柳橋の特

產品で「じゅうねん」と呼ばれ

る白玉ごはんなどを

使用し、定式

幕をイメージ

かせない食べ物

として新たな交流を創出していく

成果が結実する中、柳橋き

らり塾のメンバーが取り組ん

でいるのは経営の安定化。け

やき亭が今後も地域の中核施

設としてして新たな交流を創出

していくよう大切になる。集

客力向上のための新店「一開

発はもちろん、高齢者向けの

宅配弁当や販売所での販売と

それを踏まえ、東北電力

はまつらいく元気塾のオーナー

一同、これからも支援を続けて参ります。

## 農家レストランが開業

食べたくなる美味しさ。

オープン前に対応したパ

スナーも好評を博した。

内容は柳橋地区の名所「地

蔵桜」などをバスで巡った

後、「けやき亭」で食事をする

といいもの。そもそもはけ

やき亭の開業を控え、料理

提供の習熟を目的に開催し

たものだったが、ぜひ18年

も開催してほしい」との声が

寄せられた。

太寿司は歌舞伎公演での弁当販売

も実現にこぎ着けた。太寿

司は食材の一部が歌舞伎

の公演時期に確保できしない

から、柳橋地区の

活性化に貢献してくれそ

太寿司「けやき亭」で提供される色々な料理



## ソルヌ

### チーフパートナー

は じ と だ た つ お  
橋立 達夫氏  
作新学院大学 名誉教授



柳橋地区は、江戸時代には天領として栄え、歌舞伎をはじめとして4つの無形文化財を持つ「舞の里」として文化的な香りを今日に伝えています。その一方で、中心産業であった石材産業の衰退や交通の流れの変化などにより、現在では少子高齢化が進み空家や耕作放棄地も目立つ集落になっています。

5年前から、地域の将来のために何をすべきかを地域の方々と、大学生と一緒に考えてきました。その中から、地域の高齢者と子供たちの交流の場を創出する事業のほか、地元食材を生かした料理コンテストやおもてなし料理を開発するための食のワークショップなど、様々なアイデアが生まれ、持続的な文化と自立的な経済に向かう将来への夢が見えてきました。

この夢の実現に向けて一步踏み出すためにまちづくり元気塾の支援を受けたのです。その成果として昨春、元気なお母さんたちと、協力的な男性町内会役員の方で、「舞の里 けやき亭」がオープンしました。

しかし、本当のまちづくりはこれからです。お客様を確保するか、ボランティア作業からビジネスに変えるために、付加価値をどうつけていくか。お弁当の宅配事業など基盤的な事業の立ち上げ。高齢者を巻き込んでの食材の生産体制。まだ課題は山積しています。しかしそれはまた新しい夢にもつながっています。皆で地域の暮らしを楽しむ場としての食事会の開催など、さらなる夢の実現に向けて、進んでいっていただきたいと思います。パートナー一同、これからも支援を続けて参ります。



柳橋きらり塾メンバー  
宗像 栄子さん

柳橋地区には地域ぐるみで歌舞伎公演を続けてきた伝統があり、毎年多くの方が来場頂いています。この歌舞伎と柳橋の良いところを組み合わせ、地域を元気にしていかたいという思いが以前から私たちにはありました。

まちづくり元気塾では、まちづくりパートナーの方に地元の食材を生かしたメニュー調理方法など、様々な助言を頂きました。自分が普段何気なく使っている食材にこんな使い方があるのかと驚くとともに、自分たちにもやれるのではないかという新たな可能性を感じることができました。私たちの思いをけやき亭の開業に結び付けることができたのは、元気塾のおかげです。

食べてもらえることで野菜づくりにも張り合いが生まれ、生産者の方々も喜んでいます。けやき亭の開業により、地域に活力が生まれていることを実感しています。

けやき亭の開業までは柳橋地区に住む多くの方々の協力を頂きました。開業という目標に向かって皆で動いたことが、新たな人と人とのつながりを生みました。また、けやき亭はコーヒーセットなども提供しているため、地域の人が気軽に集う交流の場としても機能しています。もちろん、経営の安定や後継者といった課題はありますが、これらのつながりが柳橋の活性化をさらに加速させてくれると信じています。

# 2017年度「まちづくり元気塾®」

2017年度は4団体の支援団体を対象に、まちづくりパートナーによる講義や、地域の魅力を再発見するワークショップなどが活発に行なわれてきた。元気塾を通じて、それぞれの地域に暮らす人たちが、地域の「強み」と「弱み」を知り、地域資源の発掘や課題解決に向けて取り組んでいく。地域を目指す将来像と、そこにたどり着くまでのアプローチを、まちづくりパートナーとともに検討してきた4団体の取り組みを紹介する。



特定非営利活動法人 能代観光協会

## 地域資源を活用した滞在型観光の推進による能代市への誘客促進

世界自然遺産・白山山地の玄関口として多くの観光客が訪れる秋田県能代市。能代観光協会では、こうした地域の自然や文化、産業を取り戻しながら、現状の「通過型観光」から「滞在型観光」へとシフトさせ、交流人口を拡大させ、観光振興につながるまちづくりを目指している。元気塾のワークショップでは、能代駅周辺の商店街で地域資源を発見するために歩き歩きを行い、「お宝地図」を作成するなどして、「観光客を50万人呼び込むためのアイデアを出した。また、これを基に、「イベント」「既存の地域資源」「食」の3テーマについて検討を重ね、実践につながるアイデアを絞り込んだ上で、「誰が」「どのように」実現していくか具体的な検討体制を議論。目標は「滞在型観光」へのシフトに向けた準備を着々と進めている。

### まちづくり パートナー

菊池 勝也 氏  
能代観光協会  
マネージャー/パートナー  
寺川 重俊 氏  
能代ララモリ研究会代表講師  
遠月 孝志 氏  
能代市観光課  
地域活性化担当  
代助取締役



### まちづくり パートナー

磯部 大輔 氏  
能代市観光協会  
マネージャー/パートナー  
寺川 重俊 氏  
能代ララモリ研究会代表講師  
遠月 孝志 氏  
能代市観光課  
地域活性化担当  
代助取締役



## 「花のまち高田プロジェクト」を通じた 地域の活性化につながるまちづくり

「日本三大夜景」や「東洋一の堀」など花の名所として知られるとともに、江戸時代以来の城下町の風情が残る新潟県上越市高田地区。城下町高田花ロード実行委員会は、この島のある街で、花とアートをテーマにしたイベント「花ロード」や、個人宅の庭などを公開するオープングーデンなどを実施し、地域活性化につながるまちづくりを目指す団体。元気塾では、「花のまち高田」の実現に向けて、どのような視点やアイデアが必要か議論を重ね、具体的なイベントやそれを実行するための組織づくりについて検討。「花のまち高田プロジェクト」を考えると語って実施したワークショップでは、メンバーそれぞれが考えたアイデアを発表・整理し、活動の方向性を確認合った。こうした議論を通じてアイデアを絞り込み、今後、四季を通じたイベントの開催などの具体的な企画を実行に移すため、体制を整えていくこととしている。



城下町高田花ロード実行委員会

### 支援団体 紹介

農事組合法人 湯の郷

岩手県  
花巻市

## 花巻南温泉峡など地域資源を活用した観光と農業の連携

農事組合法人湯の郷は、「山間地の活性化」を住民参加型のまちづくりで実現することを目指し、地域資源である花巻南温泉峡などを活用した観光と農業の連携をテーマに活動を行っている。元気塾では、まちづくりパートナーとして、山形県からのまつ温泉で実施されている、「温泉・食事・ウォーキング」を組み合わせた健康づくりツアーの紹介を受けたほか、地域資源を活用した商品開発・ブランド化の進め方やアイデア実現に向けた予算化・スケジュールの設定などについてアドバイスを受けた。また、ワークショップを通じて、特産品のしさば、たけねぎなども活用した商品開発、温泉周辺のウォーキングツアーや、農業体験といった話題を目的とした企画などのアイデアが生まれた。現在、そのアイデアを具体的な成果に結びつけよう取り組みが進められている。

### まちづくり パートナー

磯井 由五 氏  
第三セクター農業技術指導員  
マネージャー/パートナー  
畠谷 寛美子 氏  
花巻市地域活性化実行委員会副会長  
土屋 重人 氏  
立山温泉旅館オーナー/運営会員  
岡 美穂 氏  
office.yasumoto@outlook.jp  
若狭 伸一 氏  
北条温泉旅館行蔵屋敷地主  
マネージャー/パートナー  
設置 真理子 氏  
花巻市ユニアドハイブリダイ  
(オーナー/パートナー)



### まちづくり パートナー

志賀 伸一 氏  
北条温泉旅館行蔵屋敷地主  
マネージャー/パートナー  
栗田 利詮 氏  
愛媛大学文学部准教授



## 地域資源を活用した 交流人口拡大につながるまちづくり

明治時代の洋風建築物などが残り、「みやざの明治村」と呼ばれる岩手県盛岡市。とよま縁の会は、まちの魅力を生かしながら交流人口を拡大させ、地域活性化につながる取り組みを実施。元気塾のワークショップでは、地域をあらためて見直すため、「豊米をどんなまちにしたいか」をテーマにグループディスカッションを行った。そこから出たアイデアに基づき①「歴史文化の大切にするまち」「②「自然景觀・街並みと文化施設を大切にするまち」「③「女性と若者が楽しくまち」の3つに絞り込み、より踏み込んで議論。検討結果を踏まえ、豊米の魅力を発信する役割を担う組織の創立と、人々が集まる交流スペースの整備を目指して具体的な検討を始めるとともに、新たに組織の核となる人材をどう育てるか、出資者をどう募るかといった課題解決に向けて取り組んでいる。

とよま縁の会

宮城県  
登米市